

## 波乱万丈の中学受験

五年生の時は八割と取っていて得意科目だった算数が六年生になり五割六割程しかとれなくなり、成績が一気に下がりました。勉強法は変えていないのになぜか算数の成績が下がり続けるという事態に追いこまれて私は算数に苦手意識が生まれ、勉強をしなくなりました。さらに私の成績を下げたのは六年の夏休みです。私は「理科の先生が怖い」という理由で数回塾をサボりました。授業の復習もし、かりこなしていたなかったため、夏休み

明けの組み分けテスト下は一気に七コース落ちました。その時、鈴木先生に「ひたすら算数をやれ」と言われ、「算数をやらずには」と思ったのですが、テキストを広げると解けない問題はかり。結局私の学習態度に変化はありませんでした。二の項、私は「何とかなる」と受験を甘くみていました。「直前になればやる気になる、その時頑張れば大丈夫」という変な自信もありました。そのまます一月になりました。私はまた塾をサボりまし



た。そしてそのことが母にバレ、鈴木先生に相談しました。先生の「一か八かだが、転塾をされた方がよい」という言葉をうけ、転塾をしました。その後、「心機一転頑張ろう」と自分なりに努力はしていましたが、成績には結びつかず、十二月の最後の模試も、三つ受けて三つとも桜蔭の合格可能性は二十パーセントでした。私は「心機一転頑張ろう」という気持ちさえもなくし、自分なりの努力もしなくなりました。そんな私の沈んだ心に火を

つけたのは一月十二日に受けた栄東東大工の不合格です。栄東は順位等がでるのですが、その順位は下から数えた方がはやかったです。直後には市川の入試がひかえていました。新しい塾の先生には「市川が不合格だったら桜蔭は厳しい」と言われていたので、「市川にはなんとかしてでも受からなければ」と思い、本気で勉強をしました。この時から算数を中心に桜蔭はもちろん筑駒、麻布、聖光学院、武蔵など桜蔭に近い出題形式の過去問を解き



まくりました。そしてなんとか市川から合格をいただきました。しかし、私はそれで気をゆるめず、最後まで頑張りました。とはいえ本気で頑張った期間が二週間と短く、悔いだらけ、不安だらけで二月一日をむかえました。そして二月二日、歩次の試験が終わった後、「桜蔭は無理かもね」と母に言われ、泣きました。だからこそ合格は本当に嬉しかったです。しかし、せめて一月一日から、せめて十一月から頑張っていれば、もう少し余ゆうをもって受験をむかえられたと思います。でも、東東の後から私が頑張ることができたのは、先生の「算数をやれ」というアドバイスや「桜蔭に合う」というハ、励ましの言葉があったからです。鈴木先生、本当にありがとうございます。いましました。